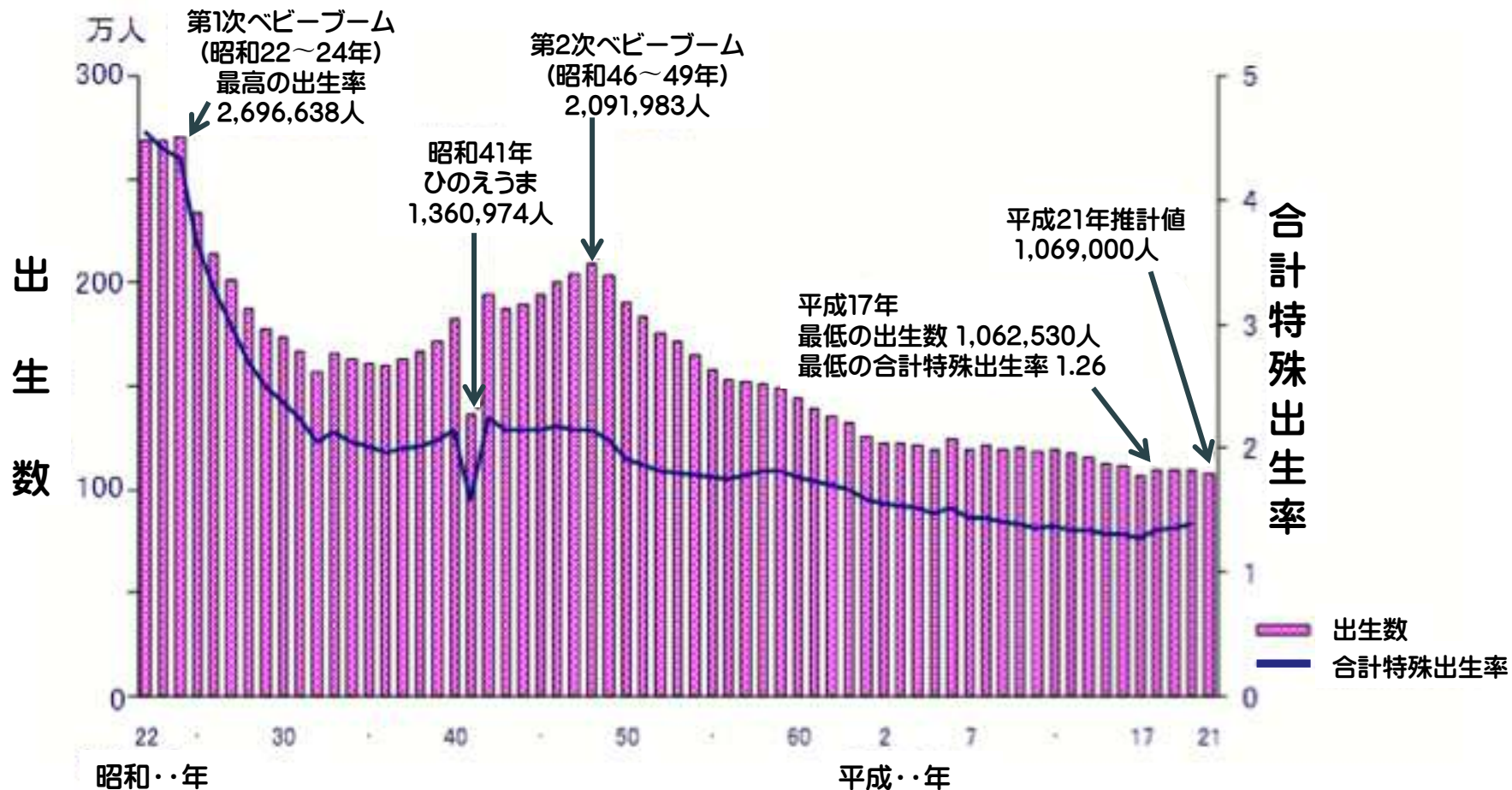


図1 出世数及び合計特殊出生率の年次推移



平成21年人口動態統計の年間推計(厚生労働省)

◎人口問題審議会「出生力動向に関する特別委員会報告」

- ①出生率の低下は、今後もしばらく続くが、八十年代は上昇基調に転ずる可能性もある。
- ②しかし出生率が上昇しても、人口を現状維持するまでには回復せず、将来人口の漸減化傾向は免れない。

合計特称出生率 \parallel 一人の女子が出産年齢（十五―四十九歳）の間に何人の子供を産むかという率

一九七五年――一九七九年

一九七九年――一九七七年

（合計特称出生率が、仮に、二・一人で推移した場合、二〇二五年人口の増減がストップする、静止人口の状態になるといわれている）

◎「五十四年度厚生行政年次報告書（五十五年版厚生白書）」

六十五歳以上の老年人口比率

一九七九年 八・九%

一九九〇年 一一%（予想）

二〇〇〇年 一四・三%（予想）

（国連が定義した、「高齢化した社会」とは老年人口比率が七%以上の場合を指す）

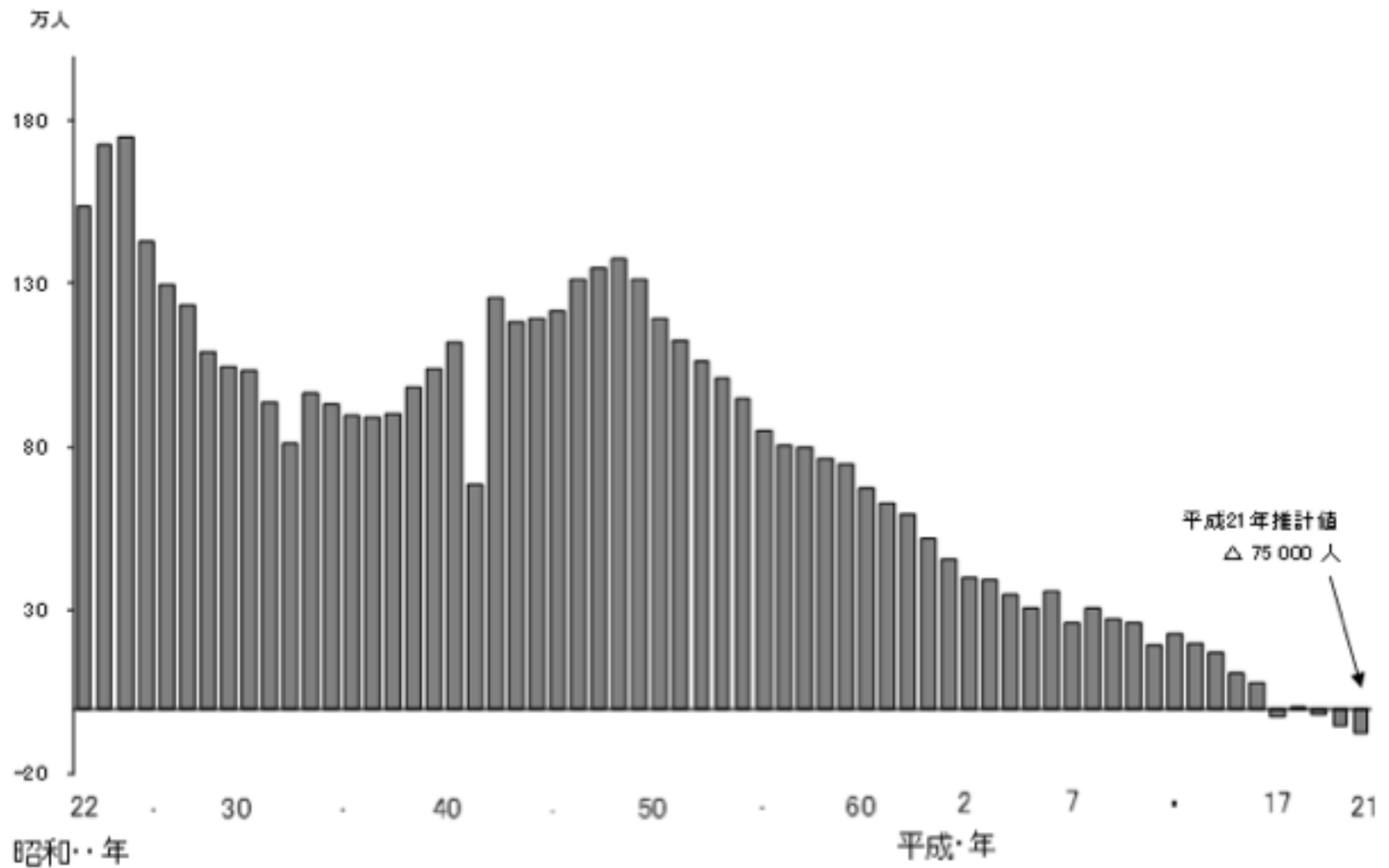
厚生年金の保険料

一九七九年 月収の一〇・六%

二〇〇〇年 月収の二〇%程度（予想）

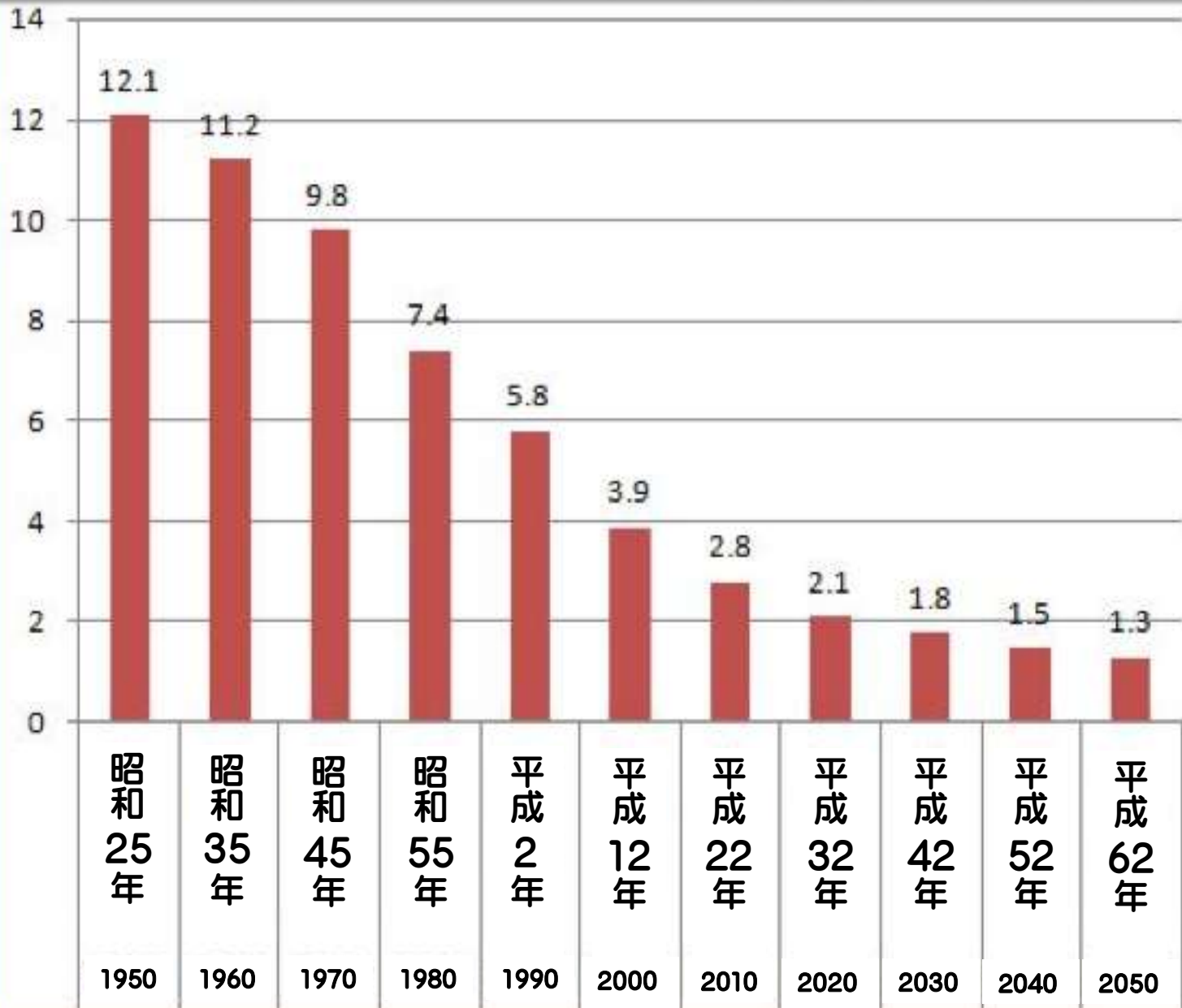
二〇二〇年 月収の三五%程度（予想）

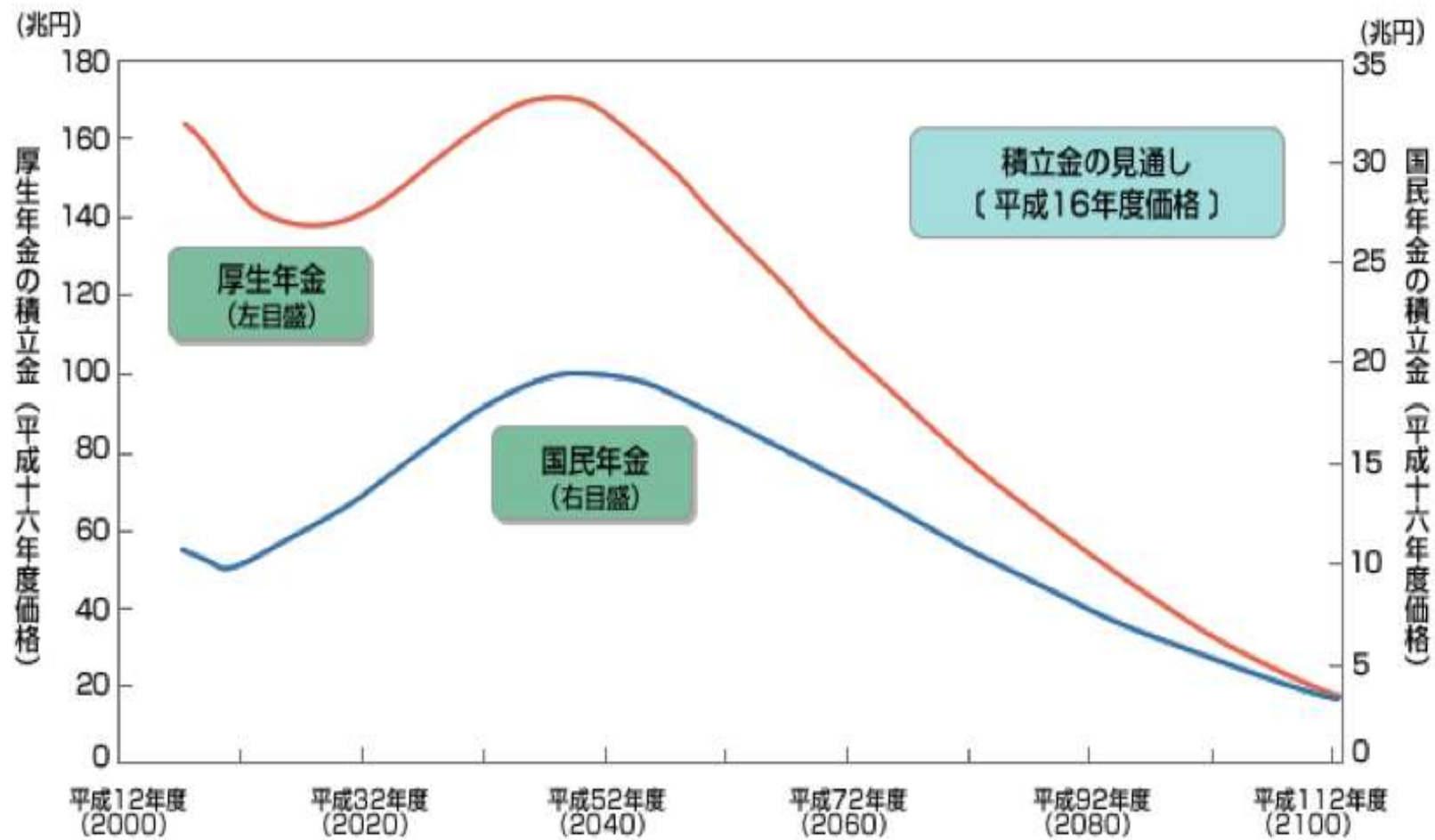
図3 自然増減数の年次推移

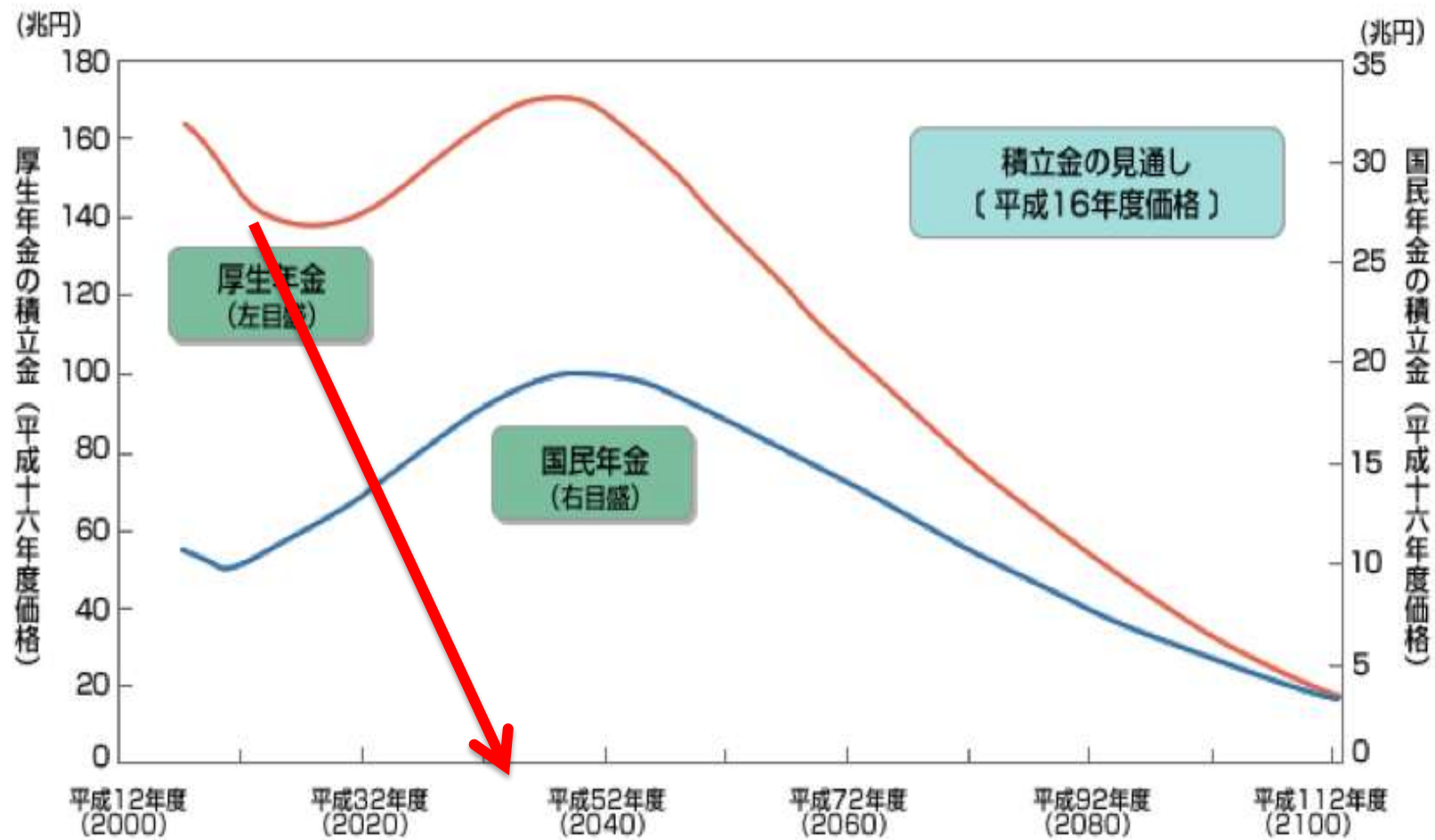


平成21年人口動態統計の年間推計(厚生労働省)

年金世代1人に対する現役世代の数



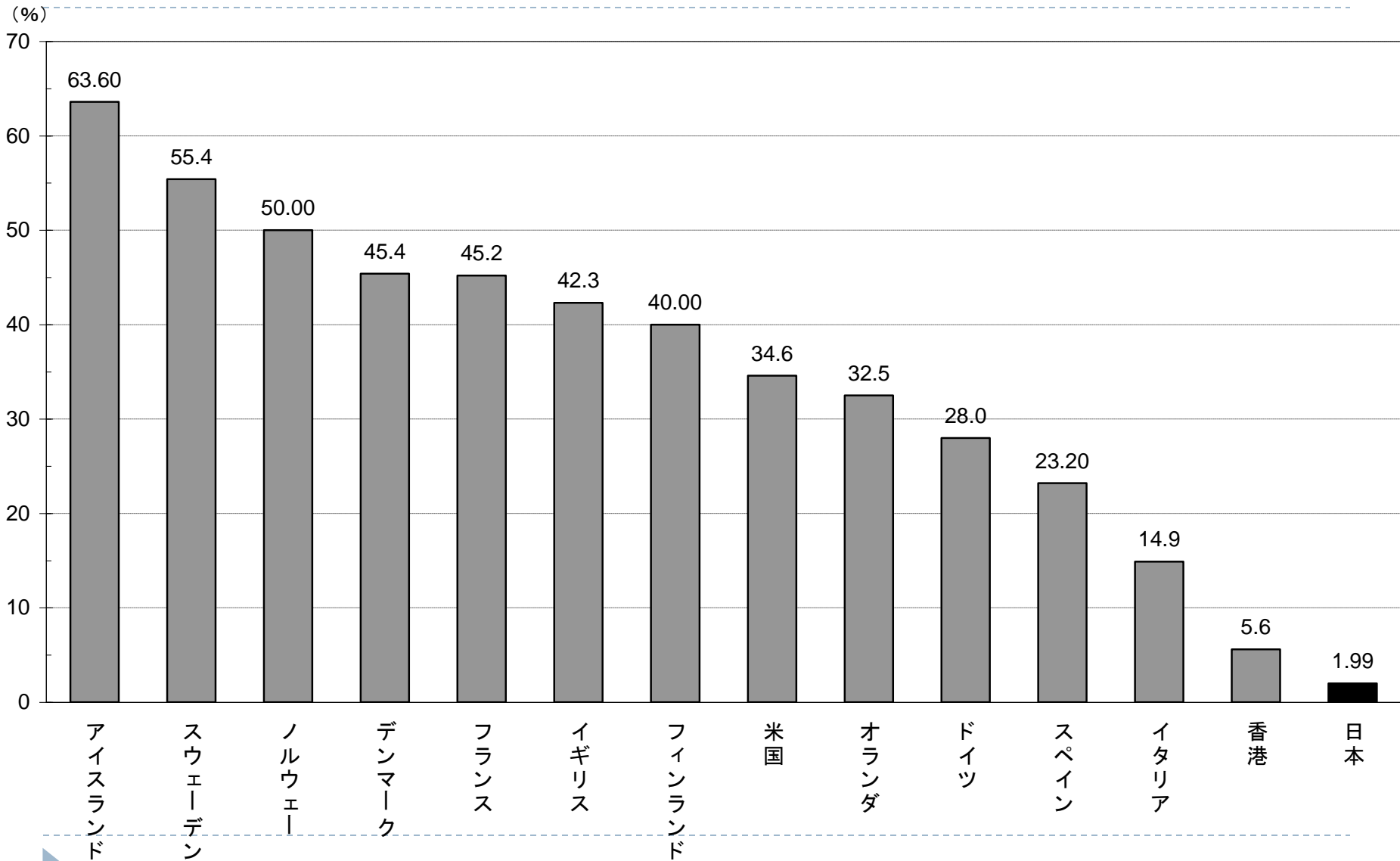




生涯未婚率



非嫡出子率



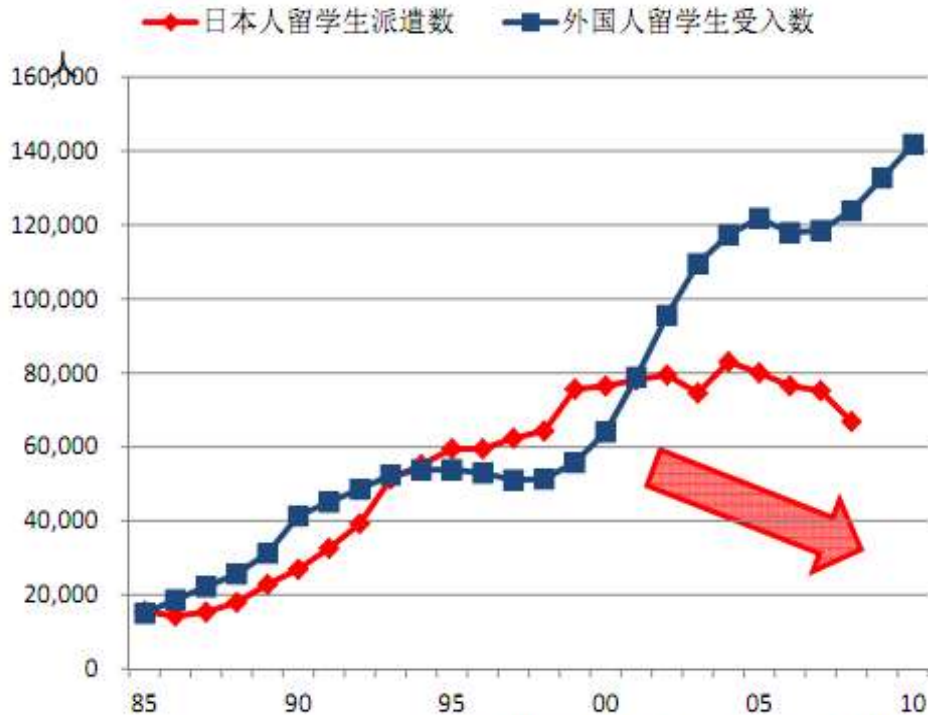
結婚後の女性の所得は??

- ▶ 働き続けると **28,560万円**
- ▶ 育児退職後再就職 **20,083万円**
- ▶ 育児退職後パート **4,768万円**



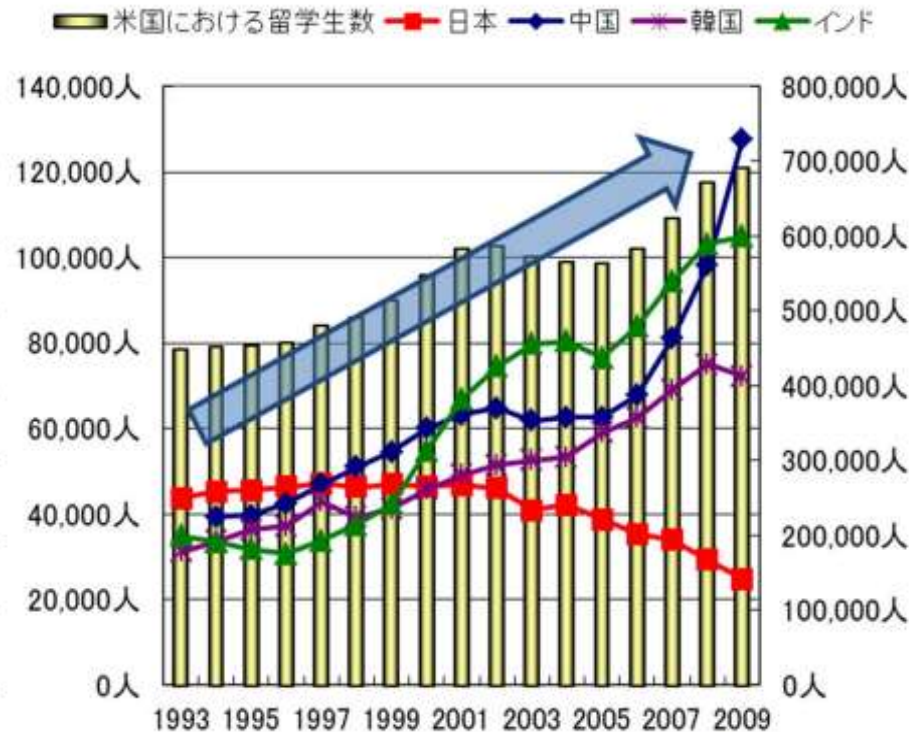
1. 人 (④若者の「内向き」)

日本⇄海外の留学生数



【出典】受入れ: 文部科学省、日本学生支援機構調べ
派遣: OECD、IIE、ユネスコ文化統計年鑑等調べ

米国における主要国の留学生数



出典: 『E「Open Doors」』

-
- ▶ シャープ、
 - ▶ JTB、
 - ▶ ヤンマー、
 - ▶ 大正製薬、
 - ▶ 西武鉄道、
 - ▶ 明治図書出版、
 - ▶ 四國ガス

▶ 1912年

▶

-
- ▶ Microsoft 1975 (ビル・ゲイツ)
 - ▶ Apple 1977 (スティーブ・ジョブズ)
 - ▶ Google 1998年 (ラリー・ページ)
 - ▶ Facebook 2004年 (ザッカーバーグ)



経済学部総合政策学科主催 キャリア形成支援セミナー

2年生対象

「起業」を考える

キャリア形成の一つに「起業」があります。今回は、若手の起業家3人と、社会的企業論などに詳しい西田亮介本学科非常勤講師を迎えて、みなさんと「起業」について考えてみたいと思います。

日時 2012年1月25日(水) 13時00分～14時30分

会場 1号館4階 1405教室



駒崎 弘樹さん

NPO法人フローレンス代表理事
〈病児保育のNPO法人を起業〉

1979年生まれ。1999年慶應義塾大学総合政策学部入学。在学中に学生ITベンチャー経営者として、様々な技術を事業化。同大卒業後「地域の力によって病児保育問題を解決し、育児と仕事を両立するのが当然の社会をつくれまいか」と考え、ITベンチャーを共同経営者に譲渡しフローレンスをスタート。日本初の「共済型・非施設型」の病児保育サービスとして展開。現在、東京23区及び浦安市、川崎市、横浜市の働く家庭をサポートしている。



西田 亮介さん

総合政策学科非常勤講師、(独法)中小企業基盤整備機構リサーチャー、project .review主宰

1983年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。慶應義塾大SFC研究員、慶應義塾大学政策・メディア研究科助教など。2009年度神奈川県かながわの協働を推進する県会議委員、東京工業大世界文明センター「クール・ジャパン国際シンポジウム実行委員会」委員。研究は、日本の社会起業家の企業家精神の醸成過程・日本の大学発ベンチャーの阻害要因の特定、情報と社会、メディアリテラシーなど。本学科での担当科目は「コンピュータリテラシーIIA・B」(選択科目B)。



吉田 貢太郎さん

和食屋「結 MUSUBI」(6号館地下)店長
〈食をツールに田舎を都会の学食に〉

1986年生まれ。2006年東洋大社会学部入学。全国各地の田舎を訪れて自然や文化に触れ関心を持ち始め、次第に都会に住む学生たちに田舎の良さを伝えたいと思うようになった。4年生の春、「食をツールに田舎を伝えよう」と卒業研究のプロジェクトとして、全国の米を使ったおむすびと地域の食材でつくる料理を出す店を思いつく。2010年

卒業と同時に4月に「結 MUSUBI」を開店。青森や茨城などから送られる地場野菜中心の健康的な和食メニューは女子学生や職員にも人気。最近では、東日本大震災の被災地域でつくられた食材を取り入れた「被災地応援メニュー」も販売中だ。



大木 洵人さん

シュアールグループ 共同創業者・代表
〈手話に関する製品開発や映像制作を手がけるNPO法人を起業〉

1987年生まれ。慶應義塾大環境情報学部卒業。高校3年時に米Clarenceville High.Schoolに留学、首席卒業。チアリーディング州13位。慶應義塾大学環境情報学部入学。SFC手話サークルIm 手話を立ち上げ、第58回NHK紅白歌合戦手話バックコーラス出演。2008年シュアールグループを創業、代表。国際ビジ

ネスコンテストGlobalTIC Talentpreneur Awardにて大会史上初の二冠、湘南学生ビジネスアイデアコンテスト大賞など、これまでに6つのビジネスコンテストにて8つの賞を受賞。2010年9月にはグッドデザイン賞2010受賞。



司会 松原 聡 総合政策学科教授

1996年より東洋大学教授。経済政策、とりわけ民営化、規制緩和を専門にしながら、朝まで生テレビ、サンデープロジェクト(テレ朝系)などマスコミなどで積極的に発言。郵政改革(小泉内閣・郵政懇談会委員)、特殊法人改革(総務庁特殊法人等情報公開委員会参与、厚生労働省独立行政法人等整理合理化委員会委員)、通信放送改革(通信放送懇談会座長)などで政府委員を務めてきた。現在、日本公共政策学会会長、国際公共経済学会事務局長、学会連携・震災対応プロジェクト代表呼びかけ人、(株)シンシア取締役。「民営化と規制改革」、「政策評価」(選択科目A)担当。